時事ネタWATCH

中高年MSMと暮らし

「同性婚導入で、国を捨てる人、この国にいたくないと言って反対する人がいる。僕だって見るのも嫌だ。隣に住んでいるのもちょっと嫌だ。」（首相秘書官）

本誌三六号のこのコーナーでは、**「LGBTの新しい法律案、国会に提出されず」**と題して、LGBT理解増進法が政府与党内の根強い反対にあって成立しなかった経緯を紹介しました。

それから二年近くが経過して、国会まわりの情勢は、どうなっているのでしょうか。

●岸田首相の答弁と荒井秘書官の発言

今年二月一日、衆議院予算委員会で、岸田首相に対して「（同性婚について）慎重に検討するとは、いつまでに検討するのか明言してほしい」といった質問がされました。

それに対して、岸田首相は、**「（同性婚については）日本の国民全てがそれによって大きな関わりを持つことになる、社会が変わっていく、こういった問題でもあります。全ての国民にとっても、家族観や、価値観や、そして社会が変わってしまう、こうした課題であります。**だからこそ、社会全体の雰囲気、全体のありよう、こうしたものにしっかり思いを巡らした上で判断することが大事だということを申し上げております。」と答弁しました。

相変わらずの内容で、これだけであれば「またか」で済んでいたところが、この首相答弁を解説した首相秘書官のオフレコ発言が波紋を呼びました。

二月三日夜、首相官邸において、荒井勝喜首相秘書官は、記者団に、岸田首相の答弁の意図等を解説する中で、**「（同性婚の法制化により）社会の在り方が変わる。秘書官室は全員反対で、身の回りも反対だ。同性婚導入になると、社会のありようが変わってしまう。国を捨てる人、この国にいたくないと言って反対する人は結構いる。」「僕だって見るのも嫌だ。隣に住んでいるのもちょっと嫌だ」**等と発言しました。

オフレコでしたが、新聞が報道し、大きな波紋を生み、翌日の四日、荒井前秘書官は更迭されました。

二月五日には「更迭だけでは終わらせない！#岸田政権にLGBTQの人権を守る法整備を求めます」と題したオンライン署名活動が始まりました（※）。

現在、七万五千人近くの署名が集まっています。

（※）https://www.change.org/protect_lgbtq_rights

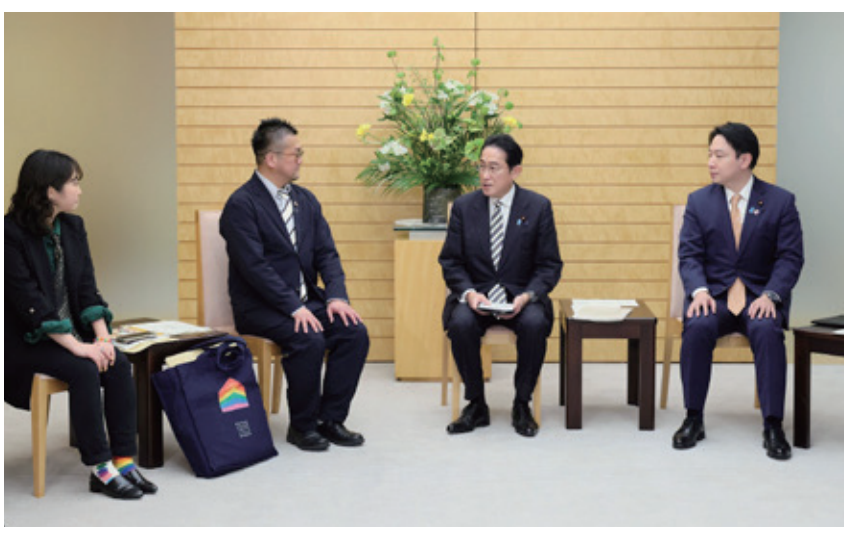
●岸田首相の釈明、「プライドハウス東京」等との面会

二月八日、岸田首相は、荒井前秘書官の発言に対して、**「今回の総理大臣秘書官の発言、これは、不当な差別と受け取られても仕方ないものであり、政府の方針と全く相入れず、言語道断であり、不快な思いをさせてしまった方々におわびを申し上げなければならないと思います。**その上で、私の発言についてですが、これは、同性婚制度の導入については、国民生活の基本に関わる問題であり、国民一人一人の家族観とも密接に関わるものであり、その意味で、全ての国民に幅広く関わる問題であるという認識の下に、社会が変わるということを申し上げたわけであります。」等と釈明しました。

そして十七日には、岸田首相は、「プライドハウス東京」等の団体の代表者らと面会し、秘書官発言についてお詫びをした上で、**「政府としましては、多様性が尊重され、そして、全ての人々がお互いの人権、あるいは尊厳を大切にする、そして、生き生きとそれぞれの人生を享受できる社会を目指すべく努力していかなければならないと思っています」**と述べました。

●G7サミットまでに？

この二年間も国会に提出されず、店ざらしになっていた**「LGBT理解増進法」**も、**超党派議連は、G7広島サミット（五月十九～二十一日）までに成立を目指す方針だと言います。G7諸国の中で同性婚やLGBTに関する法律が全くないのは日本だけ**ということで、国際的にちょっと恥ずかしいということなのでしょうか。広島サミットはちょうど本誌が発刊される頃ですが、どうなっていることでしょうか。



写真：首相官邸ホームページ（https://www.kantei.go.jp/jp/101_kishida/actions/202302/17lgbt.html）から